

高知大学AP事業の成果と展望

高知大学大学教育創造センター 塩崎俊彦・高畑貴志・小島郷子・杉田郁代

1. 高知大学のAP事業の成果

ディプロマポリシーに基づく教育活動を加速させるための3つの柱

【取組】

- I. 教育改革に向けた意識改革
- II. 多面的評価指標を外部と開発
- III. 学生の成長を地域と社会と協働して検証する

【成果】

- 「教育の質保証」の再生加速へ
1. 学部・コースを超えた全学的な取り組みの定着
 2. 現代社会のニーズにあった能力指標の開発
(卒業後も視野に入れた指標)
 3. アセスメントスケジュールを全学で整備

I. 教育改革に向けた意識改革

教育改革に関する意識の共有化

FD・SDウィークの実施

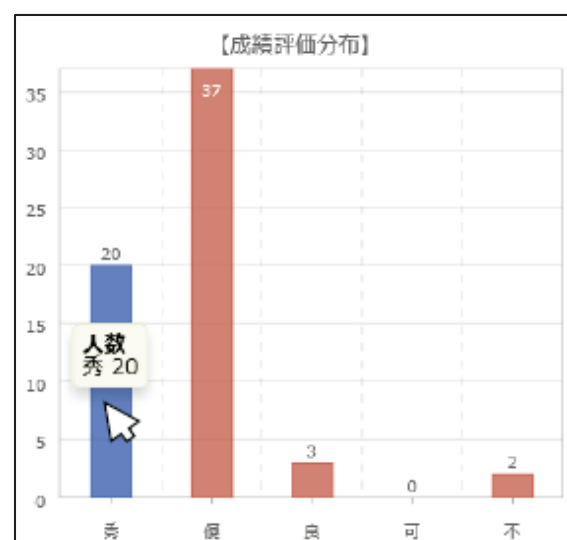


教職員で授業参観
学生の学びの実態把握
教職協働

GPAの厳正化

成績に関わる申し合わせの作成

授業科目における成績評価分布の公表



外部講師によるファシリテーション力向上FD



全学的な取り組みの定着

ディプロマ・サプリメントを卒業時に発行

10+1の能力

専門分野に関する知識、人間の文化・社会・自然に関する知識、論理的思考力、課題探求力、語学・情報に関するリテラシー、表現力、コミュニケーション力、協働実践力、自律力、倫理観
統合・働きかけ

II. 多面的評価指標を外部と共同開発

学修成果の可視化

総合的教養教育に関するWG報告
10の具体的能力の提案

10+1の能力指標に基づいたDPの見直し

10+1の能力測定指標(ルーブリック)の作成

全学横断の具体的能力指標

セルフアセスメントによる10の能力の測定
教員・学生による+1(統合・働きかけ)の評価

eポートフォリオに蓄積・共有

教員・学生へフィードバック
学修成果の可視化
正課を共有した面談・支援

「学修成果の可視化」の整備

III. 学生の成長を地域と社会と協働して検証する

本学の卒業生は「社会で活躍できているか」を検証

出口の課題を検証

多面的評価指標開発研究会

多面的評価指標開発研究会とは？
高知大学が育成しようとする人材についての能力指標の開発に向けて、高等学校関係者や地域・企業と協働して研究会を開催し、多面的評価指標の開発に取り組み、質保証の仕組みの構築を行うことを目的に設置。
「高大接続」と「大社接続」



卒業生調査の実施

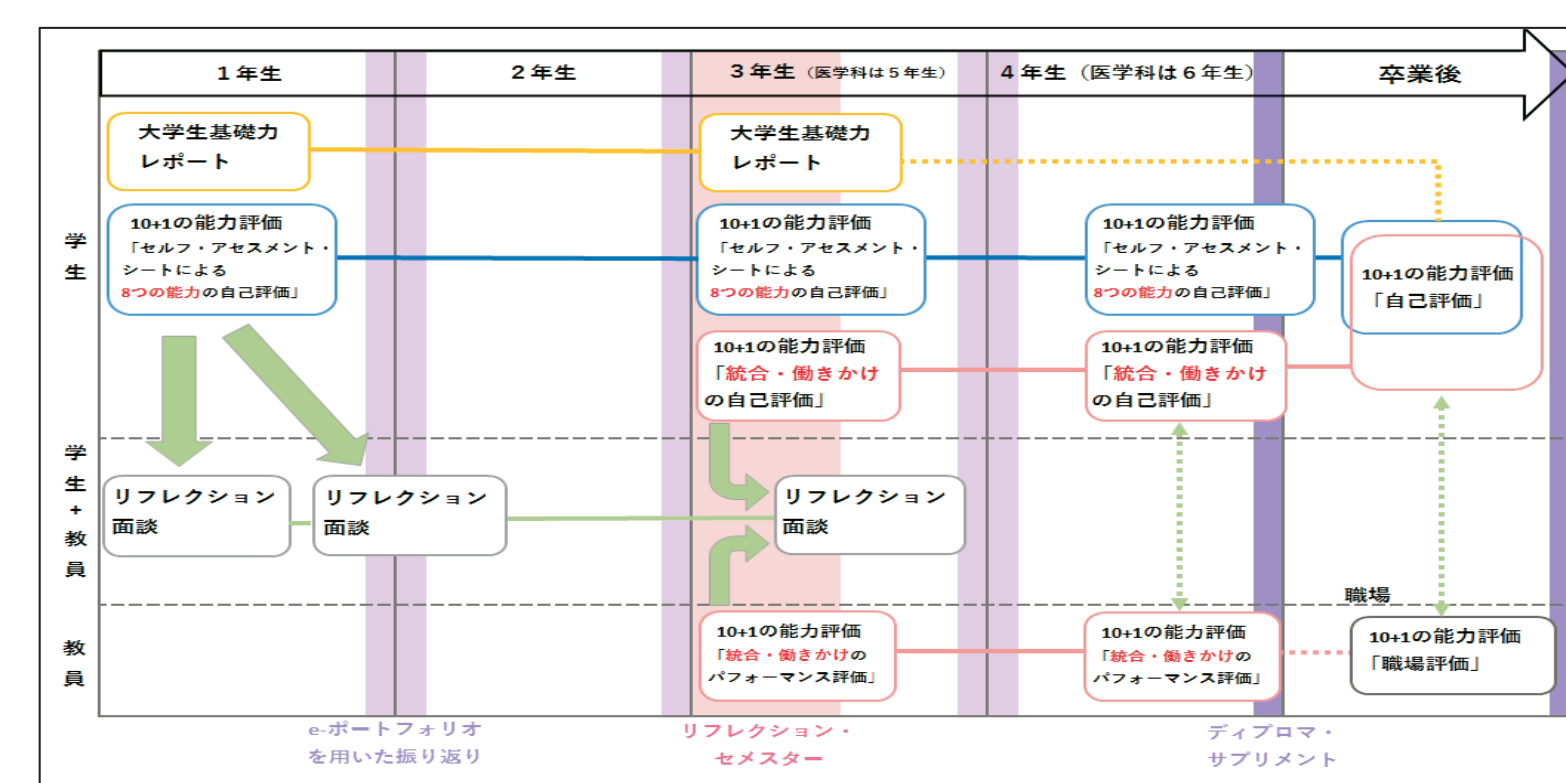
全学同じ尺度で検証

インタビュー調査(首都圏と地方で実施)
卒業生の自己評価と上司の他者評価を聴き取り調査

質問紙調査(社会人1年目の卒業生)

能力指標とルーブリックの開発に反映
卒業後のパフォーマンスの保証
社会で活躍できる卒業生の育成

卒業後も視野に入れた指標によるアセスメント・スケジュール



学位プログラムを越えた全学的な教育の質保証に関する体制が構築された。

2. 展望

「2040年にむけた高等教育グランドデザイン」(中央教育審議会、2018年)に示された、「教育の質の保証と情報公表—「学び」の質保証の再構築」に照らして、本学のAP事業における成果と課題は以下のとおりである。

1. グランドデザインで求められる「卒業後の成長をも意識した質の向上を図る必要性」の難しさ。

グランドデザインでは、「卒業後の成長をも意識した質の向上を図る必要性」が求められているが、卒業生に調査を実施することの難しさ、在学時とのものさしのすり合わせ、卒業生の自己評価の信頼性の課題などの難しさがある。本学では、多面的評価指標開発研究会を設置し、卒業生が働く社会と、質を測るものさし(コンピテンシーの共有も含めて)について検討を重ねた。

2. 2つの評価のチューニングの必要性

本事業では、学生の自己評価のみを取り扱わず、教員評価と卒業生の場合は上司評価を照らし合わせて検討を重ね、検証を行った。学生(卒業生含む)は、評価者としては未熟であることを踏まえて検討する必要がある。

3. 質保証のための教学マネジメントの構築

本事業によって、学位プログラムを越えた質保証のための体制の骨格を提示することができた。今後は、学修成果の可視化による成果を用いて、どのように教学マネジメントを機能させていくかが課題となる。

